

男女共同参画及びユニバーサルデザイン推進に係る調査の実施結果について

男女共同参画及びユニバーサルデザイン推進に係る意識調査について、結果をとりまとめたので報告する。本調査結果は、令和5年度に予定している、中野区男女共同参画基本計画及び中野区ユニバーサルデザイン推進計画の改定に向けた基礎資料とする。

1 調査概要

- (1) 調査対象 区民(18歳以上)、区内事業所(いずれも無作為抽出)
- (2) 調査方法 郵送により依頼し、郵送またはオンラインによる回答
- (3) 調査期間 令和4年7月6日～8月5日

2 回収状況

調査対象	発送件数	有効回答件数	有効回答率
区民	2,000件	717件	35.9%
事業所	2,500件	391件	15.6%

※区民、事業所ともに約4割がオンライン回答であった

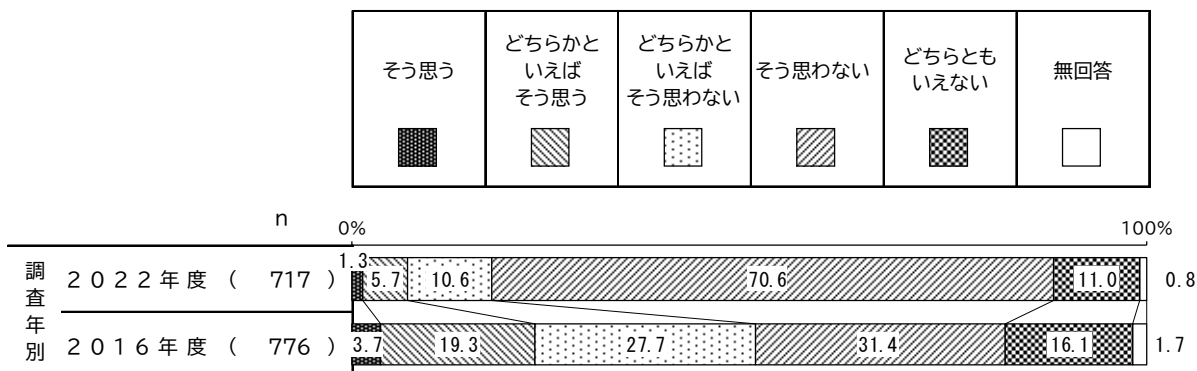
※前回調査時(2016年度)の有効回答率は、区民38.8%、事業所19.4%であった(郵送回答のみ)

3 調査結果

(1) 男女共同参画に関する調査(前回調査比較)

①区民対象

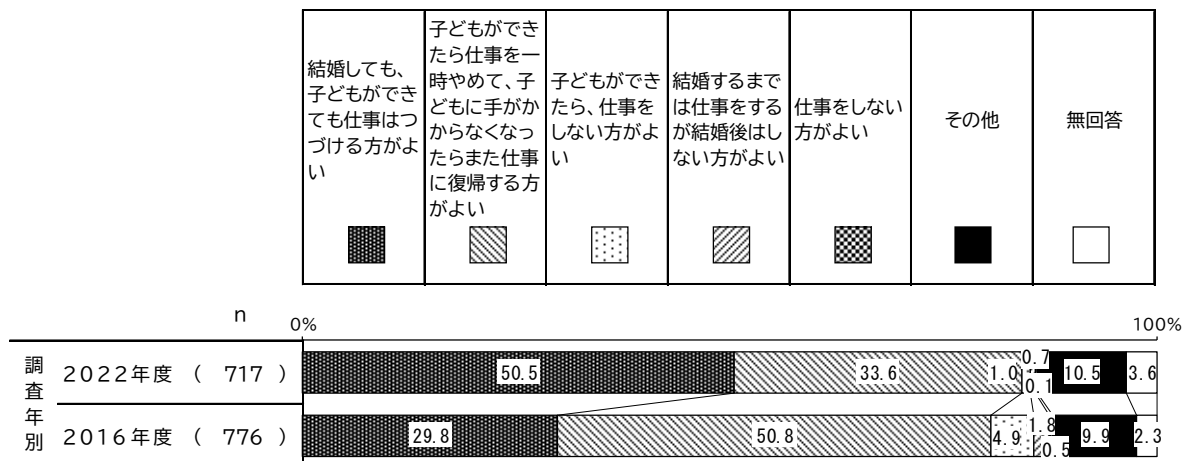
○「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方



「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合は、2022年度(81.2%)が2016年度(59.1%)を22.1ポイント上回る。

※2016年度調査時の回答選択肢は、「そう思う」は「賛成」、「どちらかといえばそう思う」は「ほぼ賛成」、「どちらかといえばそう思わない」は「ほぼ反対」、「そう思わない」は「反対」で聴取している。

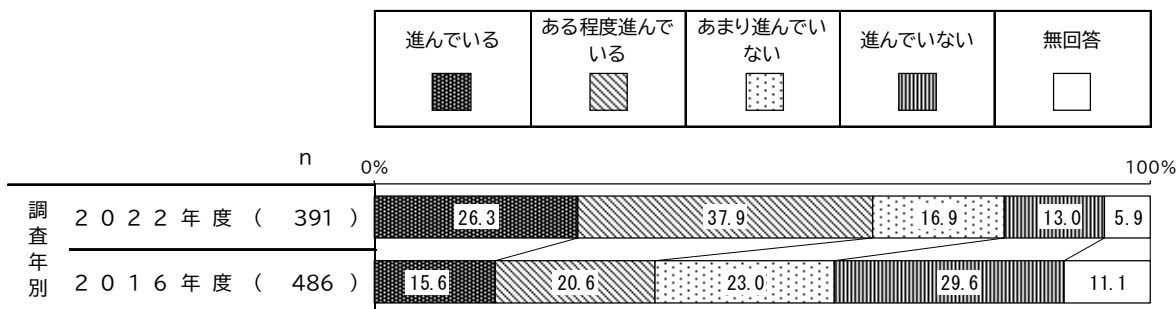
○女性が働くことについての考え方



「結婚しても、子どもができて仕事はつづける方がよい」において、2022年度(50.5%)が2016年度(29.8%)を20.7ポイント上回る。

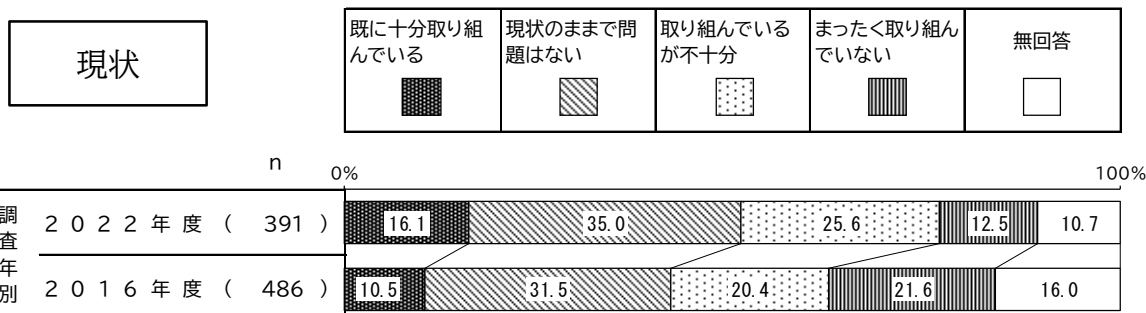
②区内事業所対象

○女性が活躍するための取り組みが進んでいるかどうか

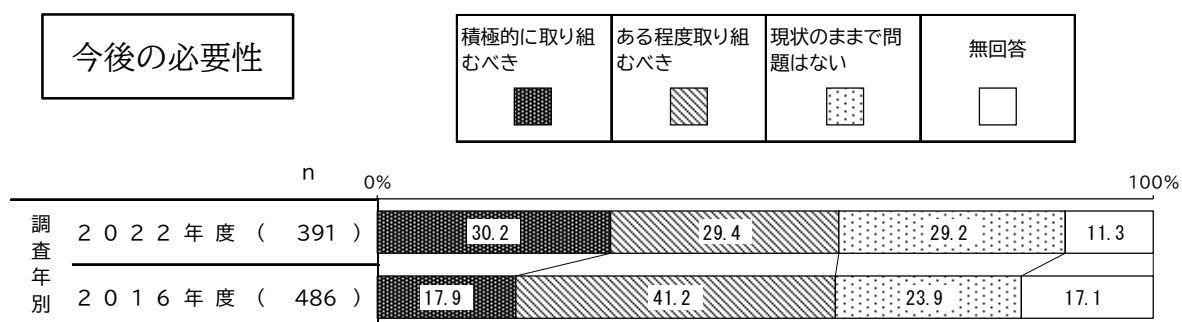


「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の割合は、2022年度(64.2%)が2016年度(36.2%)を28.0ポイント上回る。

○ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みの「現状」と「今後の必要性」



「まったく取り組んでいない」の割合は、2022年度(12.5%)が2016年度(21.6%)を9.1ポイント下回る。



「積極的に取り組むべき」の割合は、2022年度(30.2%)が2016年度(17.9%)を12.3ポイント上回る。

(2) ユニバーサルデザインに関する調査

○中野区ユニバーサルデザイン推進条例にある事業所の努力規定の認知

- 知っている 19.4%
- 条例があることは知っているが、努力規定は知らない 25.8%
- 条例自体知らない 41.9%

○自分の事業所でユニバーサルデザインを取り入れているかどうか

- 取り入れている 27.9%
- 取り入っていない 59.6%

○ユニバーサルデザインを取り入れることによる利益(上位3つ)

- 顧客満足度が上がる 49.5%
- 事業の評判が良くなる 27.5%
- 従業員の雇用の制限を減らせる 19.3%

○自分の事業所における性的指向や性自認(SOGI)に配慮した運営

- 実践している 14.3%
- 知っているが実践できていない 28.9%
- 知らない 20.5%
- 該当しない 22.5%

4 報告書

別添「中野区男女共同参画・ユニバーサルデザインに関する意識調査報告書」及び「中野区男女共同参画・ユニバーサルデザインに関する意識調査報告書(概要版)」のとおり。

5 調査結果の公表

区ホームページで区民等への情報提供を行うとともに、区政資料センターや区立図書館等に調査報告書を配置する。

6 今後の予定

令和5年 8月 計画改定の考え方について

10月 計画素案

12月 計画案

令和6年 3月 計画改定